

大御所家康を癒した鷹狩の地 藤枝



～歴史と未来の交差点
家康ロマンの旅～



伝統・文化・日本遺産

日本遺産 JAPAN HERITAGE

藤枝市無形民俗文化財

藤枝大祭り
(砲波神社大祭の奉納踊り)
長唄・三味線・囃子方により披露される地踊りは、質・量ともに日本一と称されます。



日本遺産 JAPAN HERITAGE

岡部宿大旅籠柏屋

江戸時代後期(1836年)に建てられた旅籠で、当時の様子がわかる歴史資料館となっています。



静岡県指定無形民俗文化財

朝比奈大龍勢

2年に一度開催される、朝比奈川沿いの地域に古くから伝わる伝統行事です。



藤枝市スポーツ文化観光部 観光交流政策課
〒426-8722 静岡県藤枝市岡出山1-11-1
TEL 054-643-3078



大御所家康を癒した“鷹狩の地”

晩年、大御所となった家康は、慶長12年(1607)、江戸から駿府城に移りました。鷹狩好きな家康は、亡くなる元和2年(1616)までに15回以上、田中城に立ち寄り、駿府城からほど近い田中城周辺や志太平野一帯でしばしば鷹狩を行いました。

家康ゆかりの史跡「田中城」はこうして墜ちた～武田方との熾烈な攻防～

同心円形の縄張りをした、日本で唯一の「円郭式城郭」であった田中城は、周囲が湿地帯に囲まれ、攻めにくい堅城でした。家康は天正3年(1575)から田中城攻めを開始し、天正10年(1582)3月まで約7年にわたり、田中城を断続的に5回以上攻めたとされています。

●家康の田中城攻め 略年表

永禄13年(1570)2月	武田信玄が今川方より「徳一色城」を奪い、田中城と名付け、西駿河における武田方の重要な軍事拠点となる
天正3年(1575)6月	家康による、田中城攻撃が始まる
天正6年(1578)3月	家康による、田中城攻撃
天正6年(1578)8月	家康の「苅田」戦法による、田中城攻撃 ポイント 周囲が湿地帯に囲まれ、攻めにくい堅城だった田中城攻略に家康は手を焼きました。そこで、家康は「苅田」による攻撃を開始。「苅田」とは、城周辺の田んぼの稲や麦を刈って敵地の作物を略奪する戦法のこと。当時、籠城兵の大半は城下の農民で、「自分(農民)たちが手塩にかけて育てた作物を刈り取られる様子をじっと見ているわけにはいかない」という籠城兵の心理をついた作戦。田中城の城門付近では、武田方と徳川方との間で、槍の応戦や銃撃戦など、激しい攻防が繰り返されました。
天正7年(1579)5月	家康による、田中城攻撃
天正8年(1580)5月	家康による、田中城攻撃
天正8年(1580)7月	家康の「苅田」戦法による、田中城攻撃
天正10年(1582)2月	家康、1万人の大軍での田中城攻撃
天正10年(1582)3月	武田軍降伏。田中城が徳川方の城となる



17世紀前半頃の田中城 (東海道鳥瞰名所絵図 栗原昌司画)

食べすぎが原因で腹痛に!?!家康と鯛の天ぷら

元和2年(1616)1月21日、鷹狩で田中城に立ち寄った家康ですが、一説(「元和年録」等)には、京の豪商・茶屋四郎次郎の勧めにより、京で流行っている鯛の天ぷら(揚げ物)料理をいつもより多く食べ、その夜、腹痛を起こしました。駿府城に戻って療養生活を送りますが、同年(1616)4月17日、75歳で生涯を閉じました(死因は胃がんという説が有力)。



令和5年度 主な家康関連イベント



日程	イベント
5/5 <small>金祝</small>	徳川葵の御紋バッジづくり
5/20 <small>土</small>	藤枝おんぱく 「家康ボタリング」
〃	藤枝おんぱく 「田中城散策と鯛の天ぷら昼食」
5/21 <small>日</small>	家康ゆかりの地を巡る! 元氣ふじえた健康ウォーキング
5/27 <small>土</small>	藤枝おんぱく 「藤八柿スイーツと街歩き」
〃	藤枝おんぱく 「小川孫三を住ませた藤枝宿案内」
6/1 <small>水</small> ～6.1/11 <small>水</small>	生涯学習講座 「藤枝の歴史と徳川家康」(全8回)
6/3 <small>土</small> ～	家康鷹狩り記念館 オープン (史跡田中城下屋敷)
〃	古地図デジタルマップ「Stroly」 田中城周辺地図 公開
6/3 <small>土</small> ～7/17 <small>日祝</small>	郷土博物館特別展 「徳川家康と田中城」
〃	旧東海道商店街 ぐるっと藤枝 グルメシールラリー
7/5 <small>水</small> ～12/6 <small>水</small>	家康と藤枝の歴史講座 岡部図書館(全5回)
8/5 <small>土</small> ・8/26 <small>土</small>	藤枝市民大学 講師:小和田哲男 「家康が生きた静岡・藤枝」
10/1 <small>日</small>	藤枝大祭り～地域の伝統文化体験会～
10/6 <small>金</small> ～10/8 <small>日</small>	3年に一度の「藤枝大祭り」
10/21 <small>土</small>	2年に一度の「朝比奈大龍勢」
10/29 <small>日</small>	家康御膳レシピ紹介 フード!スマイルフェスティバル
10月～11月	「つながる商店街」周遊フォトラリー 「家康の藤枝まち歩き」 藤枝宿・田中城周辺デジタルクイズラリー
〃	みちゆかし 「家康ゆかりの田中城・白子ウォーキング(仮)」
10月又は11月	鷹狩イベント・講演会 (郷土博物館前イベント広場)
11月	西益津小学校「亀城祭」 (小学生による大名行列)
11/4 <small>土</small>	大旅籠柏屋展示 「徳川家と十石坂観音」
12月	

アプリを活用したゆかりの地紹介

街を歩いて巡る旅アプリ
東海道「藤枝宿」



藤枝宿・田中城周辺
古地図デジタルマップ



悠久のを感じる、家康の足跡

①勝利を導く縁起物「朝比奈ちまき」と「ちまきの井戸」

戦国時代、朝比奈地区一帯を治めていた朝比奈一族が戦に出陣する際に作っていたもので、戦場で食すと常に勝利したと言われ、「勝利を導く縁起物」として大切にされていました。榎の木を燃やして灰を作り、その灰汁に一晩浸したもち米を蒸して作るちまきは、榎の灰汁が防腐剤となり、日経っても柔らかく日持ちすることに加え、腹もちも良く、実用的な携帯食とされていました。これを知った家康は、家臣に命じ「朝比奈ちまき」を献上させ、賞味したといわれています。朝比奈地区には、ちまきを作る時に水を汲んだと伝わる「ちまきの井戸」が今も残っています。現在は、地元の中学生に「縁起物」として受験シーズンに配布されています。



②朝比奈大龍勢(静岡県指定無形民俗文化財)

龍勢とは、戦国時代に岡部・朝比奈地域に勢力を振るい、今川・武田・徳川氏に仕えた豪族・朝比奈氏と岡部氏が用いた緊急連絡用の狼煙が起源とされている、全長15mを超える巨大なロケット花火です。この龍勢を打ち上げる祭典「朝比奈大龍勢」は岡部町朝比奈地区に伝わる伝統行事で、2年に一度開催されています。



③家康膳で大名気分「玉露の里」

「どうする家康」をはじめ、数多くの大河ドラマの時代考証を手掛ける、戦国時代史研究の第一人者「小和田哲男氏(静岡大学名誉教授)」監修による、家康ゆかりの食材を使用した御膳が楽しめます。



家康膳(イメージ)

④家康にも仕えた豪族・岡部氏の居城「朝日山城跡」

今川家臣として仕え、その後武田氏や家康にも仕えた豪族・岡部氏の居城とされる中世の山城。現在、城跡は朝日稲荷神社に変わりましたが、曲輪、土塁が残っており、神社から東に向かうと、志太平野を一望できる展望台があります。



⑤勝退藪跡

かつて鬼島村の小柳津源六の屋敷内に、50間(約90m四方)の広さの竹林があり、勝退藪と呼ばれていました。家康が関ヶ原の戦いのとき、この竹を旗竿として出陣し、見事勝利して以来、吉例として大坂の陣にも旗竿を献上したといわれています。



⑥馬上の清水

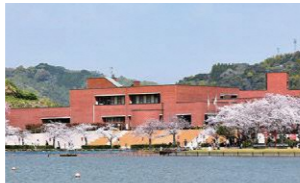
家康が鷹狩で田中城に立ち寄ったときに、馬に乗ったままここの湧き水を飲んだことから名前が付けられたこの清水は、田中城を目の前にして旅姿を整えたり、登城の心構えをした場所といわれ、今でもきれいな水が湧き出ています。



⑦家康常設展・特別展「藤枝市郷土博物館・文学館」

常設展では「家康と田中城」コーナーを設け、資料展示をしています。また、家康と田中城の歴史的な関わりを紹介するオリジナル歴史アニメを、常設展内の150インチの大型シアターにて上映しています。約7年間にわたり、武田軍と激しく争った迫力満点の合戦シーンや家臣たちとの固い絆、家康の駿河侵攻の分かりやすい解説などをお楽しみください。

6月3日～7月17日は、特別展「徳川家康と田中城～家康の天下取りを支えた西駿河の人々とゆかりの資料～」を開催中です。



※1 駿府城のみかんの木を挿し木したもの ※2 田中城のみかんの木を挿し木したもの

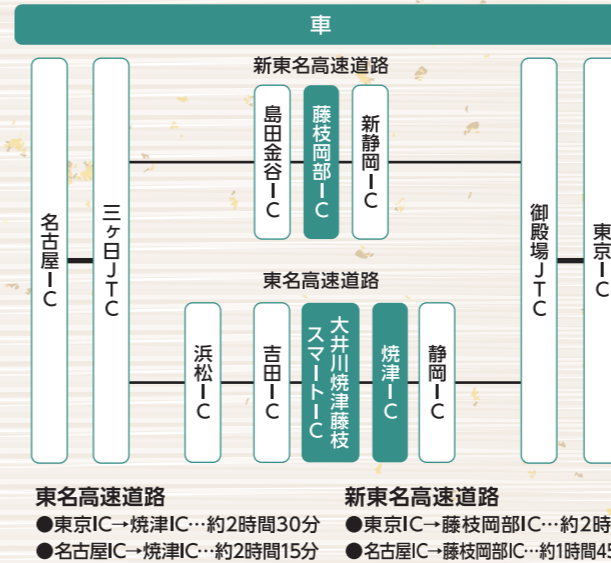
交通アクセス



飛行機

札幌	約1時間45分
出雲	約1時間20分
福岡	約1時間35分
熊本	約1時間40分
鹿児島	約1時間35分
沖縄	約2時間25分

富士山静岡空港 直行バスで約35分 藤枝駅



⑧大御所家康が通った「御成街道」

晩年になり大御所となった家康が、駿府城から鷹狩のためにしばしば田中城を訪れた際に通ったとされている街道で、家康が通ったことから御成街道と呼ばれています。

⑨洞雲寺と藤八柿

慶長5年(1600)9月、家康が関ヶ原の戦いに向かう途中に洞雲寺で休憩した際、橋本藤八という百姓が大きな美濃柿を献上しました。家康は美濃国大垣城にいた石田三成を打ち破る戦勝の吉例として「もはや美濃国は手に入った」と大いに喜び、「この柿を「藤八柿」と名付けるがよい」と言い残したと伝えられています。



⑩勝草橋と勝草餅

むかし田中城の兵が付近の瀬戸川河原で合戦して勝利を得たことから、勝軍(かちいくさ)橋と言っていたのが縮まり、勝草橋になったという説があります(諸説あり)。勝草餅は、家康が田中城(現在の西益津小付近)に立てこもった武田勢を攻め立てた際、茶店の老婆から進呈された草餅を食べ見事勝利を収めたとの伝説にちなんで「勝草餅」と名付けられた草餅です。現在は紅家で復刻販売されています(土日に販売)。また、紅家では、家康への献上柿にならった「長寿柿」も考案され、柔らかい干し柿に手練りの白あんを詰め、氷餅をまぶした銘菓として販売されています。



⑪家康を助けた命の恩人 小川孫三「白子由来記」

天正10年(1582)、本能寺の変で織田信長が討たれた際、家康は身の危険を感じ、伊賀を越え岡崎へと逃げました。伊勢の白子(現在の三重県鈴鹿市)あたりで敵に捕まりそうになりますが、その時、畑で麦を刈っていた小川孫三という百姓が麦の中に家康を隠し、敵の目を欺きました。おかげで家康は無事に岡崎にたどり着くことができましたが、孫三は家康をかくまった罪で伊勢の白子を追われる身に、孫三を不憫に思った家康は、助けてくれた恩返しとして、藤枝宿に新白子という町をつくり住むことを認め、税金を免除したといわれています。



⑫日本唯一の円郭式城郭「田中城址」(藤枝市指定史跡・日本遺産構成文化財)

壮年期から晩年まで、家康とのゆかりが深い田中城は、同心円形で、周囲を湿地帯に囲まれ、攻めにくく守りやすい堅城でした。家康は、武田方の重要な軍事拠点であったこの城を、天正3年(1575)から約7年にわたり断続的に5回以上攻め続け、天正10年(1582)、ついに徳川の城となりました。周囲の道は円を描くようにカーブしていて、他でなかなか見られない珍しい地形です。

⑬史跡田中城下屋敷(藤枝市指定文化財・日本遺産構成文化財)

江戸時代後期、田中藩主・本多家の別荘庭園であった下屋敷は、田中城の南東隅にあたり、築山・泉水・茶室も設けられて、四季の草花や月見の名所として知られていました。平成8年度までに、下屋敷跡の庭園を復元するとともに、田中城にゆかりの「田中城本丸櫓」「茶室」「仲間部屋・蔵」「長楽寺村郷蔵」等を移築・復元。城にあった建物の実物が現在まで残されていることは極めて珍しいです。



家康鷹狩り記念館(史跡田中城下屋敷)

田中城下屋敷では、家康が武田軍と戦い、晩年には度々鷹狩に訪れたゆかりの深い地である田中城の歴史や、家康が愛した鷹狩について、パネル展やアニメ映像で紹介。また、家康鷹狩の地を記念した「御城印」を6月3日から販売します。

